梅木 加津子 議員

一問一答方式

①一級河川肱川の河川管理
②今回の水害におけるダム操作と市長の対応
③今後の街づくり
④大洲市復興支援本部
⑤高齢者施設

一級河川肱川の河川管理について

問 多くの市民の方が、肱川に堆積した土砂の除去と木を伐採したら流下能力が大きくふえる。徹底して行うべきと指摘している。また、肱川水系河川整備計画にある「河床掘削は行わない」という立場を変えるよう求めるべきという声だが、どのように考えるか。

答 河床掘削は、現在、国・県で緊急的に河道内に堆積した土砂撤去や樹木伐採作業を進め河道の流下能力の回復に努め、今後も河川維持管理計画に基づき適切な河道管理に努めていくと聞いています。河床掘削は行わないという立場を変えるべきとのご意見については、掘削が必要な箇所は国・県に対し要望していきたいと考えています。

今回の水害におけるダム操作と市長の対応について

問 今回の災害に対し市長は、「どういう事態になるのか想定できなかった。私自身も経験が浅いこともあり迷惑をかけたかなと思う。また、ダム事務所の対応は、放流については恐らく決壊の危険性も踏まえて苦渋の操作をされたのではないか。ダムにより浸水被害の軽減が図られたと思っている。現時点では問題ないと認識している。」と記者会見している。自分は未熟だったので仕方がない、ダム放流も問題ないというのであれば、生活を奪われた市民には天災だから仕方がないという立場なのか。

答 私自身、家屋が浸水、損壊し、築いてこられた財産や平穏な生活を奪われた市民の皆様に、天災だから仕方ないという思いをしたことは一切ございません。発災以降、二度とこのような災害を起こさないという気持ちで取り組んできました。経験が浅い、迷惑をかけたという言葉は、皆様の被災状況を思うと言葉に詰まり、自分自身への戒めとして語ったものです。

ダム操作や放流に関しても、発災直後から検証すべきとの立場で、私も市民の1人として、同じ災害を繰り返してはならない気持ちは誰よりも強く持っております。

今回の災害と正面から向き合い、被害を最小限に抑え、犠牲者を出さないための対策を講じ、安心して日常生活や経済活動が行えるよう、スピード感を持って治水対策の強化と減災対策に取り組み、災害に強いまちづくりを進める考えです。家や財産を失い、今後の見通しが立たない住民の皆様の怒りや悲しみの声を国・県に伝え、再度災害防止、抜本的な治水対策の実施に全力を尽くす所存です。

今後の街づくりについて

問 今回被災した学校、幼稚園は、今後も被災する危険がある。当面、専決処分で予算が計上されているが、教育委員会として子供たちが健やかに安心して生活できる環境づくりをする必要があると思う。今後の対応についてお聞きする。

答 教育施設は、今回の災害で小学校4校、中学校2校、幼稚園2園が被災しました。施設の復旧には文部科学省の公立学校施設災害復旧事業が活用できるよう、現状復旧を原則とし、専決予算により既に工事に着手をしています。

ただし、肱川中学校は現在、改築作業を進めていますが、運動場と体育館、特別教室等が被災したため8月8日に事業者と協議し、当日付で事業の一時中断命令を行いました。今後は、地元の関係者で組織する施設整備検討委員会をしかるべき時期に開催して、建設場所を含め委員の皆様のご意見をお伺いし、市の方針を決定していきたいと考えています。

なお、旧正山小学校への仮移転は、計画どおり平成31年1月までに実施したいと考えています。